

# 伝承「大津波を生き抜いた子ども達の

# 奇跡ではない釜石小の軌跡」

いのちをつなぐ未来館 館長 加藤孔子  
(元釜石小学校校長)

## 岩手県さ、よくおでんした！



### 本日の話の進め方

○はじめに…

#### 東日本大震災の釜石市の被害状況

- 1 あの時、釜石小学校の子ども達は…
- 2 子ども達の命を救ったものは何か
- 3 未来へつなぐ  
奇跡ではない釜石小の軌跡



## 鐵と魚とラグビーの街釜石



### ○はじめに…東日本大震災の釜石市の被害状況

- 発生日時:2011(平成23)年3月11日(金)14時46分
- 規模/震度:マグニチュード9.0 震度6弱
  - ・ 釜石市の犠牲者1,064人(行方不明者152人、関連死認定者数106人を含む)  
住家戸数16,182戸のうち4,704戸が被災
  - ・ 釜石市内の小中学生は、市内2,926人中、学校を休んでいた5人を除く全員が津波から逃れ、  
小中学生の生存率は99.8%

## むがす あったずもな…釜石小学校の巻



東日本大震災から13年。

語り継ぐこと…「伝承」は「次の100年への備え」であり、「未来の命を守る」ためです。

東日本大震災から13年が経ち、あの時小学生だった子ども達は成人し、親になった子もいます。きっと彼らは自分の子ども達や次世代にあの時のことを語り継いでくれると信じています。

50年、100年と時が経ち、「むがす あったずもな。」と語り継がれていくことを願います。

### 1 あの時、釜石小学校の子ども達は…

#### (1) 東日本大震災津波による釜石小学校区の浸水域

釜石小学校は釜石港、釜石市役所等がある市の中心部を学区とする学校で、海から約1.3km 海拔約15mの高台にある。学区内は津波により壊滅的な被害を受けた。



#### (2) 巨大地震発生時の釜石小学校児童の居場所

2011年3月11日(金)は、釜石小学校は午前授業で、児童184名は午後1時に下校していた。

巨大地震発生時の午後2時46分には児童は、すでに帰宅していたり、帰宅してから公園や友達の家等に遊びに行っていたり、まだ下校途中で歩いていたりで、それぞれ、ばらばらのところにいた。

私達釜石小学校職員は、184名の児童の安否を心配しながらも、この日は夜通して、避難所である釜石小学校で避難所対応にあたった。

### 教訓その1 避難所対応

- ① 対策本部の組織、設置
- ② 生きるために必要なものの準備
- ③ 学校と市、地域との連携



3月12日の学校坂の下の様子

写真提供：谷澤通広氏(当時釜石小学校副校長)

翌朝3月12日(土)

学校坂を下りて見た街中は信じられない光景だった。

このような瓦礫、泥の中を釜石小学校教職員は全校児童184名の安否確認に歩いた。

日が昇り、日が暮れるまで2日間、瓦礫の中を歩いた。

そして2日目の3月13日(日)午後3時2分。釜石小学校184名全員の無事を確認した。下校後ばらばらのところにいた184名の子ども達は、それぞれの場所から一人ひとりが判断し、あの津波を生き抜いたのである。

### 教訓その2 児童の安否確認

- ① 迅速な安否確認
- ② 対面での確認
- ③ 職員自身の安全確保

(3) 子ども達はどのように行動して大津波を生き抜いたのか



A 魚釣りグループ…避難場所を変える



地震「みんな、海から離れて!」「頭を守ってしゃがんで!」「大丈夫、みんないるから泣かないで!」「あれ、見て!海の水が沖に戻っている。」市営ビルに避難「今日の揺れは異常だよ。絶対大きな津波が来るって。ここじゃやばいよ!」避難場所を変えるという意見でまとまった子どもたちの判断がみんなの命を救いました。

出典：アニメ版『釜石の奇跡』新日本出版

B 家にいたH兄弟…垂直避難の選択



「兄ちゃん、早く高台に行こうよ。」「ちょっと待て!」…この時、お兄ちゃんは学校で習ったことを思い出しました。50cm くらいの津波でも人は流される。…「屋上に上がれ!」あえて逃げないという判断が2人の命を救いました。

出典：アニメ版『釜石の奇跡』新日本出版

C 家にいたT君…幼稚園の弟の手を引いて即避難



地震直後、T君は幼稚園の弟のS君にジャンパーを羽織らせ、「S、行くぞ!」と言って高台に向かって走り始めました。…T君が素早く行動できたのは、学校で何度も避難訓練をしていたからでした。

出典：アニメ版『釜石の奇跡』新日本出版

D 友人の家で遊んでいた6年生と2年生の15人…遠くても海から離れた避難経路を選択

E 祖母宅にいたS君…避難しようとしないう祖母を説得して避難

F 友人宅に行く途中の路上にいたN君…下校時津波避難訓練のように最寄りの避難場所へ

G 学童にいたS君…想定外の大津波に指定の避難場所からさらに高い場所へ避難

H 一人で川原で遊んでいたYさん…津波防災安全マップを思い出して避難場所を決定

2 子ども達の命を救ったものは何か

『奇跡ではない釜石の軌跡』～釜石小学校の防災教育～

下校後の子ども達が全員無事のニュースは「釜石の奇跡」と言われたが子ども達は「奇跡ではないよ。ぼく達は学校で学んだことを実行しただけ。」と言う。

(1) ぼく・わたしの津波防災安全マップ作り

- ① 自宅から学校までの通学路の危険な場所や避難場所を調べ、地図に記入する。
- ② それぞれの地図を持ち、グループで確認して歩く。
- ③ 地区ごとに話し合いながら大きな地図に書き込む。



R4.8 発行『このたねとぼそ』大津波を生き抜いた釜石小学校の子ども達のひみつが記されています。



## (2) 下校時津波避難訓練

- ① 地区ごとの集団下校途中に、市防災課（現危機管理課）により学区内に地震発生と地震に伴う大津波警報発令の訓練放送を流してもらう。
- ② 地震発生サイレンにより、安全確保をする。
- ③ 大津波警報訓練放送により、6年児童がその場所から最も近い避難場所を下級生に教え、避難を開始する。
- ④ 避難場所で、ふり返りする。



## (3) 津波防災の授業

群馬大学災害社会工学研究室の片田敏孝教授（現東京大学大学院特任教授）チームのご指導をいただき釜石市内の先生方で作成した『釜石市津波防災教育のための手引き』をもとに釜石市内各学校で防災授業を行った。



### 教訓その3 子ども達の命を救ったもの 釜石小学校の防災教育

- ① 津波防災安全マップ作り      ② 下校時津波避難訓練      ③ 津波防災授業



防災教育の3つだけで、大津波を生き抜くことができるのでしょうか？

### 津波てんでんこ …古くから三陸地方に伝わる言い伝え

「津波が来たら肉親にかまわずにとるものもとりあえず、各自高台へと逃げろ。」

4年生のAさんは、帰宅後、家で留守番をしていた。Aさんのお母さんは買い物に出かけていた。



午後 2 時 46 分、巨大地震発生。お母さんは、娘が一人で留守番をしていたので、家に戻りたかった。しかし、「今自分が家に戻ったら、途中で波にのまれてしまうだろう。娘はきっと一人でも避難してくれるだろう。娘を信じよう。」そう思って、自分も坂を上がったところにある避難場所に避難した。これこそ「津波てんでんこだ。」と実感したと言う。

一方、娘は、一人で留守番をしていて、どうしようかと思ったが、学校で行った下校時津波避難訓練のように一人で家から近い高台の避難場所に避難した。

### 3 未来へつなぐ 奇跡ではない釜石小の軌跡

防災教育は、  
 10 年後に地域を支える大人をつくり、  
 20 年後には地域の防災文化をつくる礎である。  
 (内閣府防災教育新時代の実現のための提言本文より)

#### (1) 東日本大震災伝承フィールドワーク

令和 4 年 8 月に、大津波を生き抜いたあの時の子どもが、震災当時避難した道を実際に歩きながら、現在の子供達に当時の様子を伝える東日本大震災伝承フィールドワークを行った。



- ・地震発生時の午後 2 時 46 分にどこで誰と何をしていたか。
- ・家の中の状況はガラスの破片だらけで、歩けなかった。
- ・遅れて遊びに来た友達が玄関から全員のスックを運んでくれて、避難することができた。
- ・避難場所の選択
- ・外の状況 電柱・信号・車

- ・実際に走った速さで体験
- ・走るときの並び方は、2年生を前に、6年生が後ろに
- ・遅れて始めた友達をおんぶ



#### (2) 東日本大震災伝承パネルディスカッション





教訓その4 語り継ぐ

- ① 大人になったあの時の子ども達の出番
- ② 伝承の継続
- ③ 課題



釜石小学校の児童、保護者、地域の方々の心を支えた校歌～あの時も、今も、未来へ～

釜石小学校校歌 いきいき生きる

井上ひさし作詞  
宇野誠一郎作曲

いきいき生きる いきいき生きる  
 ひとりで立って まっすぐ生きる  
 困ったときは 目をあげて  
 星をめあてに まっすぐ生きる  
 息あるうちは いきいき生きる

はっきり話す はっきり話す  
 びくびくせずに はっきり話す  
 困ったときは あわてずに  
 人間について よく考える  
 考えたなら はっきり話す

しっかりつかむ しっかりつかむ  
 まことの智恵を しっかりつかむ  
 困ったときは 手をだして  
 ともだちの手を しっかりつかむ  
 手と手をつないで しっかり生きる



ジャージの卒業式の時も



避難所でも

「東日本大震災があったからこそ、  
 ふるさと釜石が好きになった。  
 ふるさとが好きだからこそ、  
 今を頑張っています。」

「東日本大震災後、多くの出会いが  
 ありました。その裏では必ず、  
 どんなに苦しくても前を向き、  
 立ち上がって頑張っている  
 『カッコいい大人たち』が支えて  
 くれていました。」



教訓その5 ふるさとを愛する

- ① 地域の地理を知る
- ② 地域の歴史を知る
- ③ 地域の人を知る
- ④ 地域とかがわかる

岩手県さ、まだ おでつてくだんせ！  
 ありがとうがんす

